

平成30年度

平成30年10月1日から

令和元年9月30日まで

事業報告書

特定非営利活動法人 ニンジン

1 事業の成果

今年度は、モンゴルおよびタイに関連し国内外で様々な活動を行った。モンゴルでは、2016年9月にスタートした JICA 草の根技術協力事業「モンゴル障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」が2019年8月に終了した。最終回となった第8回渡航では、現地の関係者が集まり事業報告会を行った。担当者からの報告ののち、事業に参加した親子に修了証を授与した。本事業では、専門家の指導のもと、2地区の療育センター（ゲゲーレンとサインンナイズ）に、定期的に地域の障がい児が通い、様々な活動を行うことができた。療育の専門家が各種のセミナーを行い療育関係者の育成を行った。私たちの活動により、モンゴル国内で障がい児療育の必要性が認識されるようになった。しかし、両センターで療育を継続するには、専門の理学療法士の派遣が必要と考えられ、今後の課題となった。当面、毎週土曜日に行われる「草の根の日」が継続できるよう支援を行う予定である。また、二つのセンターにトイレとシャワーを設置するためにクラウドファンディング「モンゴルの障がい児センターにきれいな水とトイレを！」を行った。寄付は順調に集まり目標額を達成したが、現地とのやりとりで手間取り工事は年度内に完成しなかった。その他、モンゴルへ24台の車椅子等を提供し、また交流ツアーを行った。タイについて連年どおり、北タイへのスタディーツアーと順天高校のスタディーツアーのサポートを行った。

長年使用してきた事務所が貸主の都合で移転を余儀なくされ、新たな事務所を探すことになった。

II. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) JICA 草の根技術協力事業-----モンゴル障がい児療育支援事業 「モンゴル障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」						
ア. 専門家派遣 イ. 現地での日常活動 ウ. 国内での活動	第7回専門家派遣、第8回専門家派遣を実施し、療育セミナー、療育・教育支援を行う。現地補助員が2か所の障がい児センターを訪問して活動(読み聞かせや、給与・協力謝金の支払い等)Facebookによる連携、教材開発他	10月1日～8月31日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	2,902
(2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業						
ア. 専門家の訪問	専門家から独自に現状把握の希望があり、当法人からは情報提供、保護者の会への照会、同行、通訳の紹介、アドバイスを <u>行った</u> 。	4月27日～5月4日	モンゴル国、ウランバートル市	1人	障がい児・者と家族：約50人	0
イ. クラウドファンディング	2つの障がい児センターにきれいな水とトイレを送るためにReadyforでクラウドファンディングに取り組み、目標達成に近づいた。	4月～9月30日	日本国内	6人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	861
イ. 車いす支援	車いす、バギー等を収集し、24台をモンゴルに運んで保護者の会、ゲゲーレン、サインナイズへ寄贈した。現地協力者の手により調整して手渡す。	11月～8月	モンゴル国、ウランバートル市	5人	モンゴル国の障がい児・者と家族：約150人	97

ウ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。	6月9日	東京都新宿区	20人	一般市民：172人	276
エ. 支援事業の運営	上記事業および交流ツアーなどを含めモンゴル関係者との連絡・調整を行った。	年間	ウランバートル市、東京都中央区	4人	障がい児・者と家族：約100人	43

2. 海外の障がい児・者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施

ア. モンゴル交流ツアー	車いす24台を運び、ウランバートルで2つの障がい児センターを訪問、クラウドファンディングの支援の目録を渡し交流した。その後ホスタイ国立公園へ。	8月5日～8月10日	モンゴル国ウランバートル市、ホスタイ	3人	ニンジン会員13人 モンゴルの障がい児及び家族約100人	2,137
イ. 北タイ・焼畑の村スタディツアー	北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、村人と交流した。	2月26日～3月5日	タイ、チェンマイ、チェンライ、	3人	ニンジン会員15人 北タイラフ族等：約100人	165
ウ. タイへの高校生スタディツアー	東京・順天高校のタイ修学旅行の北タイ滞在期間について、ツアーの企画・コーディネートを行った。	7月24日～8月3日	タイ、チェンライ、パヤオ、チェンマイ	5人	日本の高校生および教員：22人 タイの現地交流相手：約500人	2,166

3. 啓発事業

(1) セミナー等の開催	実施なし					0
--------------	------	--	--	--	--	---

4. 文化交流事業

	モンゴル支援事業報告会をもってあてた。					0
--	---------------------	--	--	--	--	---

5. 情報提供事業

	HP、ブログ等の発行により情報を発信。HPリニューアル作業	随時	法人事務所	2人	一般市民：不特定多数	0
--	-------------------------------	----	-------	----	------------	---

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業---モンゴル障がい児療育支援事業

(1) JICA草の根技術協力事業

草の根事業の最終年度となった今期には、2018年10月と2019年4月～5月の2回、モンゴルに渡航した。チームが提案した療育プログラム、学習教材に基づいて2センターに親子が集まって、療育・教育活動を行う「草の根の日活動」は定着した。草の根チームに海外青年協力隊員として障害児保育を経験した保育士が加わって、活動の充実を目指した。モンゴル人療育関係者につなぐために、3年間の指導内容と成長を記録した子供毎の草の根手帳を作成した。

2018年10月から、モンゴルPT協会がモンゴル医科大学理学療法士学科の学生ボランティアを草の根の日活動に派遣した。2019年5月に学生にはボランティア修了証を渡した。この活動は次期も引き継がれ、センターの活動に活気をもたらした。

カウンターパートの親の会本部のリーダーは「「ニンジンプロジェクトは『この子は長生きしない』と諦めていた親が社会に参加できると気付かせる役割があった」との評価であった。

2センターのリーダーは事業終了後の活動について、それぞれ「草の根の日活動を継続し、行政への認可申請を」あるいは「近所の子を受け入れて、インクルーシブな活動を」する方向を目指している。

事業終了に当たって、カウンターパートであるモンゴル障害児親の会、障害者開発庁、労働社会保障省、国立第10幼稚園に対して、3年間の経過報告と地域に根ざした障害児センターのモデルとしての提言を行った。また、地方で障害児を育てている親が活用できるような報告書を作成している。

事業終了後、2センターの活動を自立して実施するには、モンゴル人理学療法士の派遣が課題として残された。

ア. 専門家の渡航

第7次渡航 2018年9月30日～10月15日

第8次渡航 2019年4月21日～5月5日

イ. 「草の根の日活動」の定着

チームが提案した療育プログラム、学習教材に基づいて2センターに親子が集まって、療育・教育活動を毎週行い、この活動が定着した。

ウ. 「草の根手帳」の作成

モンゴル人療育関係者につなぐことを目的として、3年間の指導内容と成長を記録する子供毎の草の根手帳を作成した。

エ. モンゴル国内配布用報告書の作成

(2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業

ア. 専門家の訪問

重度の障がい児者の診察、医療相談を通して現地の実態把握を目的として、会員の小川勝彦医師ご夫妻が訪問された。草の根チームの梅村リーダーが、現地保護者の会との連絡、通訳の手配等を行い、現地でも同行した。

実施時期：2019年4月27日～5月4日

訪問メンバー：小川勝彦

小川きぬ代さん

内 容：保護者の会での診察、医療相談、モンゴル人医師との話し合い、保健省訪問、家庭医セミナーでの講義

イ. クラウドファンディングの実施

JICA 草の根事業の終了にあたり、支援してきた2つの障がい児センターが継続して、モンゴルにおける障がい児センターの療育モデルとして存続できることを願い、最低限のインフラ整備として、「きれいな水とトイレ」を贈るクラウドファンディングに取り組んだ。

実施サイト：Readyfor

テーマ：モンゴルの障がい児センターにきれいな水とトイレを！

目標額：1,500,000円（1,700,000円に再設定）

達成額：1,811,000円

実施期間：5月20日～6月28日

支援者：147人

Readyfor のサイト上の支援は上記の通りであるが、サイトを通さず郵便振替でのご寄付も多く、寄付者数99人、寄付額は982,640円とご支援をいただくことができた。

現地へは8月のツアーで訪問し、支援目録を渡し、工事の準備を始めたものの、業者の選定など工事については決められずいたが、JICA 関連で現地で学校のバリアフリー工事を行っている会社の協力を得て、その施工管理のもと、新年度の11月に完成することができた。

工事協力：松田コンサルティング

ウ. 車いす支援

専門家が訪問することはなかったが、今清水氏と事務局が中心となり送られてくる採寸表にもとづいて収集、保管、搬出し、現地では保護者の会を通して要請されたお子さんに調整して手渡している。国際間の輸送は、モンゴル航空にご協力いただいている。

夏のモンゴル交流ツアーでは、車いすを出発した富士山静岡空港に運び、現地では保護者の会本部が引き取った。

搬出日	種類	台数	運んだ人
2019年4月21日	車いす	4台	草の根チーム
2019年8月5日	車いす 歩行器 シャワーチェア	16台 3台 1台	第13回モンゴル交流ツアー
2018年度 (18～19)	合計	24台	

車いす提供：一二三学園(町田市)、株式会社 MIKI、株式会社ゼット本社
 輸送協力：MIAT モンゴル航空、
 保管場所：今村運送・上尾引越センター、城整形外科クリニック
 モンゴルでの車いすの調整担当：ポーギー氏(自立生活センター・スタッフ)

エ. 事業報告会の開催

モンゴル支援事業への理解者、支援者を増やすことを目的として、モンゴル音楽家の協力を得てチャリティーコンサートを開き、ロビー展示とステージから活動の紹介・報告を行った。今回はプロジェクターを使い、今年で終了となる JICA 草の根事業についての報告をし、あわせてクラウドファンディングのご協力をお願いした。お客様には報告と合わせ、素晴らしい演奏を聴いていただくことができた。

実施日時：2019年6月9日(日) 16:00～18:00
 会場：ルーテル市ヶ谷センター (東京・新宿区)
 後援：駐日モンゴル国大使館
 報告者：梅村浄・草の根事業リーダー、
 演奏：イフタタラガ(モンゴル伝統音楽グループ)
 来場者：172名

オ. 支援事業の運営

上記の支援事業を円滑に運営するために、年間を通して事務局、現地協力者と連絡を取り、関係者の来日時には打合せを行った。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル交流事業

『第13回モンゴル交流ツアー

——2つの障がい児センターにきれいな水とトイレを贈る旅——』の実施

これまでモンゴルの障がい児に車いすを届ける旅として続けてきたが、今回はクラウドファンディングで集めた資金を届ける旅として実施した。車いすは24台を運んだ。

ウランバートルで2つの障がい児センターを訪問、クラウドファンディングの支援の目録を渡し交流した。参加者の大半がクラウドファンディングの支援者で、両センターの代表者の話や子

どもたちとの交流に感動したという人が多かった。

その後、モンゴルの野生馬タヒを保護しているホスタイ国立保護地区へ。

実施時期：2019年8月5日(月)～8月10日(土) 5泊6日

参加人数：13人

訪問先：ウランバートル市内、サインサイズセンター、ゲゲーレンセンター、ホスタイ国立保護地区。

(2) タイ交流事業

ア. 『北タイ・焼畑の村スタディツアー』の実施

北タイをベースにラフ族の人びとを主として支援してきた NGO ルデラの森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みの経過に学び、生活文化にふれるスタディツアーを実施した。村では養豚講座の手伝い、見学、古着のバザーを開催して売り上げを子ども寮へ修繕費として寄付した。取り組みが進み、村人の生活が次第に豊かになってきていることが伺えた。今回は、八王子から農業・産直に携わる女性グループ7人が参加して、村人との議論も具体的で双方にとって学ぶものがあった。

実施時期：2019年2月26日(火)～3月5日(火) 7泊8日

参加人数：15人 2名はチェンマイで合流して参加

訪問先：チェンライ県メーツアイ郡ホイナムクン地区ローチョ村

イ. タイへ高校生スタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、少数民族、ストリートチルドレン、HIV感染児など、さまざまなハンディを抱える人々と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施時期：2019年7月24日～8月3日までの北タイ滞在部分。8月8日に帰国。

受入人数：順天高校より、生徒19人、引率教員3人

内 容：<チェンマイ>タイ社会オリエンテーション、HIV/AIDS関連の活動、
ストリートチルドレン関連施設の訪問、視察交流、
<チェンライ>山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での体験、
子ども寮での交流、国境の見学、象乗り
<パヤオ>ピッタヤーコム校での交流

協力者：ダイエー・セイリ氏(チェンライ)、川口泰広氏(チェンマイ)

3. 啓発事業

- (1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催
実施なし

4. 文化交流事業

(1) モンゴル文化紹介

モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログ他による情報発信。

新たなホームページを新年度の11月に公開した。

このホームページは、今までより更新が容易でブログ機能も兼ね備えている。

(2) Eメールニュース（「ニンジン・アップデート」）の発行

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2019年9月30日現在)
個人正会員	32人(33口)
団体正会員	0
個人賛助会員	56人(62口)
団体賛助会員	5団体(5口)

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催 (年1回)

日時：2018年11月24日(土) 13:30~16:45

会場：中央区女性センターブーケ21研修室1

イ. 理事会の開催 (年2回)

ウ. 運営委員会の開催 (11回開催)

理事および会員有志からなる運営委員により、事業実施の詳細を決め実施した。

(3) 財源の確保

安定した財政基盤を築くという課題はあるが、今年度はクラウドファンディングに多くの支援・寄付をいただくことができた。

(4) 事務局運営の改善

一人事務局を変えることはできず、経理に関しては専門性のある方にボランティアで協力をいただくとともに税理士の確認を受けて正確を期した。JICA 草の根技術協力事業の事務局については、メンバーの奮闘により無事事業終了を迎えることができた。これまで事務所として賃借していた場所が都合で退去を迫られ、新たな場所を検討し、新年度の10月末に、城整形外科クリニック内に移転した。

(5) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

ア. 立正佼成会一乗物産展(助成を受けている NGO が出店)

2018年10月14日(日)

イ. 順天高校スponsoredウォーク

団体プレゼン:2019年4月8日 クラウドファンディングへの協力を依頼スポン

サードウォーク:4月29日

受取寄付額 :118,040円

ウ. チャリティーコンサート「モンゴルの風」 6月9日